



本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！

先日、彦根のビバシティに映画を観に行ってきました。今話題のコードブルー。内容の濃い次から次へと展開に大変面白かったです。

そこで一番感銘を受けたセリフが、馬場ふみかさん演じる雪村双葉がかたせ梨乃演じるアルコール依存症の雪村沙代(母)から逃げたことに対して言った山下智久さん演じる藍沢耕作の一言。

この一言は、平埜生成さん演じる杉原剛志が海ほたるへのフェリー追突事故に巻き込まれた青年、船内でかつて虐待を受けていた父親から逃げて、10年ぶりに再会するも、父親が事故に遭い、その父親の救出中に藍沢先生が剛志にかけた言葉でもあります。

その言葉とは「どうしても出来ない状況から逃げても自分を卑下することは何もない」といった簡単なものです。言葉は簡単ですが、いざ行動を起こすとすると大変。

逃げるのが悪とイメージされがちですが、場合によっては必要な事だと私は思います。

以前テレビ番組でいじめ問題を取り上げていた時に、尾木ママも学校に行かなくていいのよ、逃げていいのよっておっしゃられた気がしますし、介護の世界でも自分一人で抱え込まずに誰かに任せたりしたら良いと言われています。

少し意味合いは違うかもしれませんが、私も普通の歯科診療においても、安全を確保するために途中で治療を中断したり、無理に進めずに再治療等したりします。自分自身治療したところを再度治療しなおすのは大変心苦しいですが、、、

皆さんもどうにもならない時は逃げましょう(笑)。

今回は何にも役に立たない情報でした(´;ω;`)

えー！

歯とお口のトリビア

ホント？

アメリカのビジネスマンは歯が命！



「輝く白い歯」は美男美女の象徴ですが、アメリカのビジネスマンも歯のケアには余念がないようです。30代～50代のアメリカと日本のビジネスマンを対象に行った調査によると、むし歯などのトラブルがなくても歯科医院に通院する割合は、**アメリカ人男性は76%**と8割近い一方、**日本人男性は36%**と4割程度でした。また、歯を美しく保つための費用として1年間にかけている金額は、**アメリカ人男性が平均約3万6000円**に対して、**日本人男性は平均約6000円**と6倍の開きがありました。このような意識の違いからか、**アメリカ人男性の4人に1人はむし歯になっ**たことがないそうです。ちなみに**日本人男性は20人に1人**ととても低い割合でした。ビジネスシーンにおいても、アメリカでは歯に対する意識が高いようですね。アメリカのビジネスマンを見習って、キラリと輝く歯で颯爽と仕事をこなしたいものです。